

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	49	実施計画番号	96	
事務事業名	農畜産物のブランド化		事業開始年度	22
担当課名	とわだ産品販売戦略課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業			
背景や経緯等	生産力と品質で優位にある主要4品目(にんにく、ながいも、ごぼう、ねぎ等)を中心に、その特長等をアピールし、十和田産としてのブランドを構築していきたい。			
事務事業の目的	ブランド化の構築及び推進を図り、認知度を高める。			
実施状況	健康な土づくりの取組みの代表格である十和田のミネラル野菜について、野菜ソムリエ協会との連携により、十和田産野菜のブランド力の向上及び定着を図った。 また、十和田産品及び十和田市の認知度を高めるため、メディア等への露出をねらいFacebookなどSNSを活用し情報発信を行った。			

### 【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	245	244	244
	人件費(千円)	8,820	8,784	8,784
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	1,463	2,680	5,553
うち一般財源	1,463	2,680	5,553
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

### 【指標】

活動指標	活動指標名①	野菜ソムリエ協会との自治体パートナーシップによる連携事業回数				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
		回	10	7	7	
	活動指標名②	新聞、テレビ等でのマスメディアへの掲載回数及び情報発信件数				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
		回	60	77	70	
成果指標	成果指標名①	主要4品目(にんにく、ながいも、ごぼう、ねぎ)販売額				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	JA十和田おいらせ及び十和田地方卸売市場販売額(聞き取り)	億円	目標値	52	52	45
			実績値	40	42	
			達成度(%)	77%	81%	
	成果指標名②					
計算式等	単位	24年度	25年度	26年度		
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	#REF!
計画No	#REF!

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 ブランド化は、生産者、事業者、消費者など関係者が多く、また、地域の財産として共有される必要があるため、行政が実施する必要がある。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 野菜ソムリエと連携により、十和田産のミネラル野菜の良さを的確に情報発信できている。 野菜ソムリエ協会との自治体パートナーとして、同協会とともに新たな事業展開を検討する。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 ブランド構築のためには、定着のために相当な時間を要することから、継続して事業を進める必要がある。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	B	1	3	受益者負担適正化の余地 1 / 4 ブランド化の取組みは十和田市及び十和田産品のイメージアップを図り、付加価値を高めて、農業者への受益が高まる事業となるよう配慮している。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
			現在の適性		18 / 20	改善の余地	2 / 20

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **さらに重点化を図る**

方向性の理由	十和田産品の高付加価値化を図るため、ブランド力の定着・向上に向けた取組みをさらに強化するとともに、主要4品目のみならず、その加工品をも含めた十和田産品ブランドとして認知されるよう努める。
今後の具体的な取組方策と狙う効果	十和田産品販売促進ツールを積極的に活用して、十和田産品ブランドとして認知度を醸成していく。また、引き続き日本野菜ソムリエ協会との連携により十和田産品のブランド力を強化させ地域経済の活性化を図る。